2023

Sugiyama Jogakuen

椙山女学園 学園総合案内

Sugiyama

教育理念「人間になろう」に基づく女性教育

椙山女学園は、1905（明治38）年に私の曽祖父にあたる椙山正弌といま夫妻が開校した、名古屋裁縫女学校がその起源です。以来、120年近くの間、椙山女学園は、時代に応じてその教育内容を変化させつつ、一貫して「女性により高い教育の機会を提供する」ことを目指して、努力を続けてまいりました。現在では、幼稚園、保育園、こども園から、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院を備えた総合学園に発展しています。

女性が社会で働くことは、今日では当然視されるようになっていますが、にもかかわらず目に見えないさまざまな壁が残っていることも、否定できません。日本のジェンダーギャップは先進国で最低レベルとされており、社会には解決しなければならない課題もまだ多いのが実情です。このような状況を克服し、女性がこれまでよりも社会や企業の意思決定に参画し、責任ある仕事に就くことが、期待されています。椙山女学園では、このような現代を生きる女性が活躍する上で、必要とされる教養と実践性を備えた教育を提供します。そして、園児、児童、生徒、学生の皆さんが、生涯充実した社会生活を送ることができる力を付けられるよう、丁寧に支援します。

椙山女学園は、「人間になろう」を教育の理念としています。「人間になろう」の「なろう」という言葉には、それを実践できる主体性・能動性を育んでほしいという思いが込められています。世界中の人々が人間性を尊重し合う社会を目指して、園児、児童、生徒、学生の皆さんがさまざまな活動に自ら関わり、努力し、意義ある学園での生活を送ることができるよう、学園全体をあげて取り組んでまいります。

理事長
椙山 泰生 Sugiyama Yasuo

PROFILE

東京大学法学部卒業　同大学院経済学研究科修士課程および博士課程を修了
ソニー株式会社、東京大学大学院経済学研究科助手から京都大学大学院経済学研究科助教授、准教授を経て、2010（平成22）年京都大学経営管理大学院教授
この間、椙山女学園参与に就任　2021（令和3）年4月椙山女学園大学現代マネジメント学部教授、椙山女学園副理事長を経て、2022（令和4）年4月学校法人椙山女学園理事長　博士（経済学）東京大学

教育理念

人間になろう

Nurturing humanity

初代学園長・理事長　椙山 正弌（すぎやま まさかず／1879～1964）

古人の歌に　人となれ人　人となせ人　というのがある
人間完成　これこそ学園創設の精神であり
学校教育終局の目標である　諸君よ　人間になろう

（人間橋由来記碑文より）

「人づくり」への礎石

「私は道を拓き、敷地を拡げ、校舎を建てることに専念してこと足れるかに見えるならばそれは私の心ではない、それ等はあくまで手段であり、その目的はいうまでもなく育英事業である。そして教育とは知識技能の啓発ばかりでなく、それもやがては人間完成を終局の目標としたものでなければならない、そのための環境整備であり、他面また人を導くためには先ずもって自らを磨かなければならない」
初代学園長 椙山正弟は、学園経営の形の上では、その場づくり、環境の整備も必要であると考えていましたが、それは常に育英事業、つまり「人づくり」を念頭に置いたものでした。また、大学が星が丘キャンパスに移転した際、南北の丘に橋を架け、「多くの学校に銀杏並木や桜のトンネル、橋がある。そこを渡ったり、くぐったりしている間に学生は自然と識らず識らずに人間ができあがるのだと思う」と語り、その橋を「人間橋」と名づけ、人づくりへの熱い思いを込めました。

教育理念「人間になろう」とは

椙山女学園は、「人間になろう」を教育理念とし、「ひとを大切にできる人間」「ひとと支えあえる人間」「自らがんばれる人間」の3つを「人間になる」ことであると考え、一貫した人間教育を進めてきました。私たちは教育を通じて、世界中の人々が人間性を回復し豊かさを享受できるよう、人間性を尊重しヒューマニズムの精神を創造できる人間を育成し、また、人と人との「絆」を重視し、互いのつながり、つまり人類の協調・連帯を大事にする人間となることを目指しています。そして、こうした「人間」になるために、自ら考え学ぶことにより、“なろう”とする決意を表明し実践できる自主性・主体性を育んでいます。
橋のたもとに書かれた初代学園長直筆の「人間橋」の文字は、教育理念の原点を示しているとともに、今日の私たちが未来に向かって歩むべき「人づくり」の象徴でもあります。

大切に受け継がれているもの

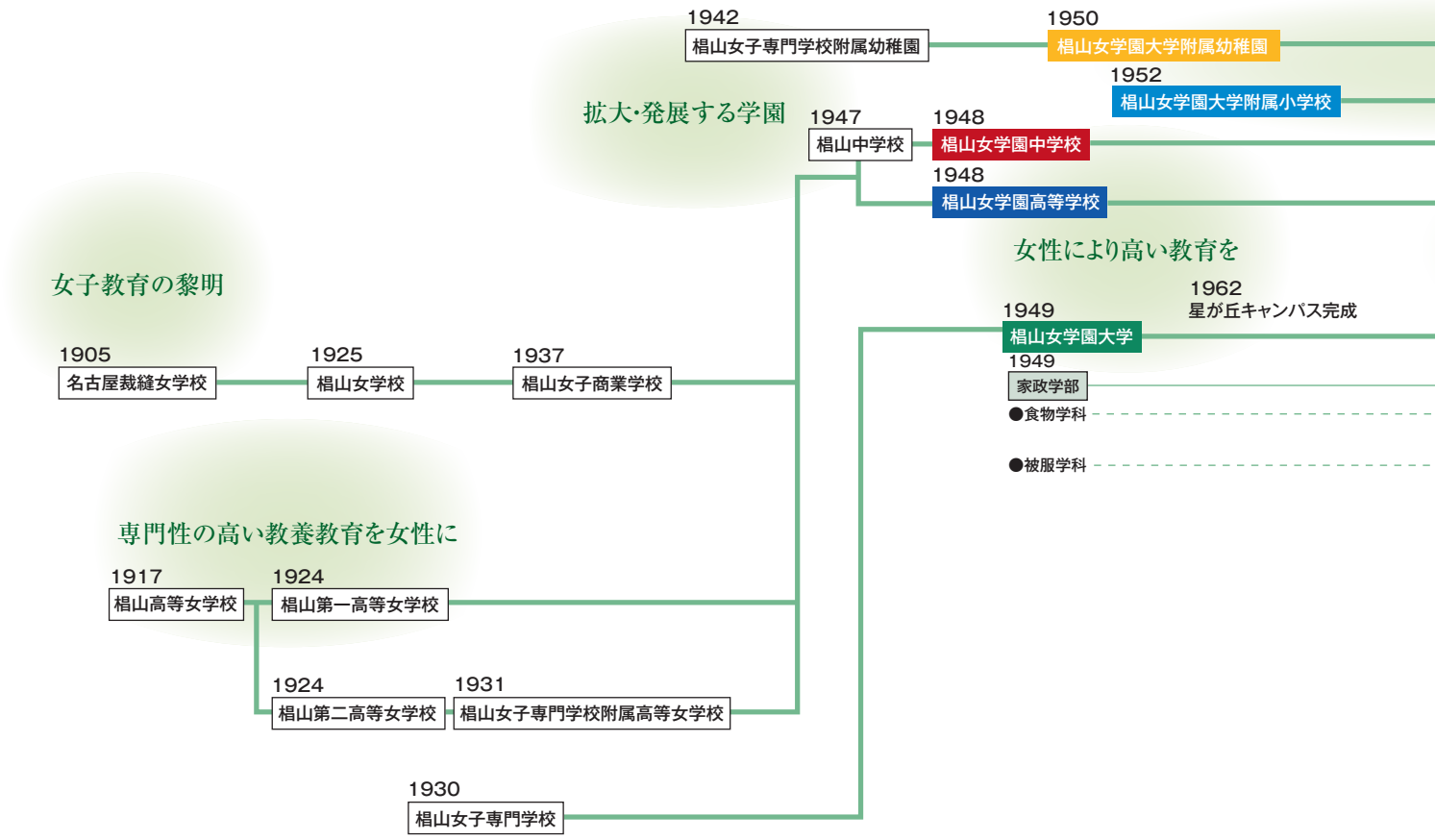
人間教育を目指す
一貫した学びの環境

椙山女学園は保育園、こども園、幼稚園、小学校、
中学校、高等学校、大学、大学院を擁する総合学園です。
「人間になろう」の教育理念のもと、
自立性・自主性・個性を重視した人間教育を行っています。

自立した
真の教養人を育成

一人の人間として個性を開花させ、
他の存在を慈しみ、絆を大切にする精神を尊び、
真の教養人として自立して生きる人へ。
こうした人間教育への思いが、
「人間になろう」の理念に込められています。

歩み続ける、伝統の先へ



椙山女学園の歩みは1905年、椙山正弌・今子夫妻が設立した名古屋裁縫女学校を起源としています。以来、「女性により高い教育の機会を提供する」という強い信念のもと、高等女学校、専門学校の設置、戦後の学制改革による中学校、高等学校の開校、大学の開学など、時代の要請に応えながら女子総合学園として発展してきました。そして、次世代を担い世界に飛躍する女性の育成と、地域社会の発展に寄与する「開かれた学園」を実現するために、今後も教育・研究環境のさらなる充実に努め、時代とともに社会が求める教育を実現していきます。

学園創設者 椙山正弌は、妻 今子とともに
女子教育・人間教育に生涯を捧げた

1905年

武家屋敷約400坪を借り受け、
名古屋裁縫女学校を開校（学園の創始）

1920年代

大正時代の裁縫授業風景

1949年

山添キャンパスに
椙山女学園大学が開学

1962年

教育理念「人間になろう」のシンボル
「人間橋」が完成し、星が丘キャンパスが誕生

2015
梅山女学園大学附属保育園

2019
梅山女学園大学附属梅山こども園

女子総合学園の実現

1978
中高一貫体制の確立

2005
学園創立100周年

大学の拡充と中高一貫教育の進展

1977
日進グラウンド整備

1987
日進キャンパス完成

女性のライフスタイルの多様化と人間教育の拡充

1991
生活科学部
- ●食品栄養学科
- ●生活環境学科
- ●生活社会科学科

1968
●食物学科
食物学専攻
管理栄養士専攻

2000
●食品栄養学科
食品栄養学専攻
管理栄養士専攻

2007
●管理栄養学科

2003
●生活環境デザイン学科

2003
現代マネジメント学部
●現代マネジメント学科

1969
短期大学部
●文学科
国文専攻
英文専攻

2000
募集停止

2001
閉学

2000
文化情報学部
●文化情報学科

大学の充実

1972
文学部
- ●国文学科
- ●英文学科

1999
●日本語日本文学科

1991
●英語英米文学科

2003
国際コミュニケーション学部
- ●表現文化学科
- ●国際言語コミュニケーション学科

2011
●メディア情報学科

1987
人間関係学部
●人間関係学科
心理学専攻
社会学専攻
教育学専攻

2002
●人間関係学科
●臨床心理学科

2007
●心理学科

2007
教育学部
●子ども発達学科

2010
看護学部
●看護学科

大学院の開設

総合大学への発展

1977
梅山女学園大学大学院

1977
家政学研究科修士課程
- ●食物学専攻
- ●被服学専攻

1999
生活科学研究科修士課程
- ●食品栄養科学専攻
- ●生活環境学専攻

2002
生活科学研究科博士後期課程
●人間生活科学専攻

2000
人間関係学研究科修士課程
●人間関係学専攻

2014
現代マネジメント研究科修士課程
●現代マネジメント専攻

2014
教育学研究科修士課程
●教育学専攻

1987年

人間関係学部を開設し、
日進キャンパスが誕生

2005年

学園創立100周年を記念して、
ベートーヴェン「第九」公演を開催

2019年

梅山こども園を開園

2022年

梅山女学園大学附属小学校
開校70周年

Interview 1

自由闊達な校風のもとの、挑戦の日々。人生の可能性を広げてくれた4年間。

Matsumoto Sachiko

松本 幸子さん　西日本電信電話株式会社

大学時代といえば、さまざまな思い出が色濃く残っています。学業面では学部の専攻科目に留まらず、「文化人類学」の講義に夢中になり、毎回一番前の席で受講したり、講義の合間には共同研究室を頻繁に訪れ、先生や仲間との議論を楽しみました。部活動（硬式テニス）やアルバイトにも全力で取り組み、大学2年次には短期でアメリカ留学も経験。マスコミ系のインカレサークルにも所属し、アナウンス技術や番組プロデュースについて学ぶだけでなく、イベントの企画・運営にも携わり、他大学の学生との交流を深めるなど、多くの事に挑戦し、自分の可能性を広げる努力をしてきました。こうした挑戦意欲を地域社会に役立てたいと思い、卒業後はNTT西日本へ入社。システムエンジニア部門、光インターネット商品の販売企画部署などを経て、現在は、ICTで地域や企業の課題解決に取り組むビジネス推進部門に所属しています。業務内容は、事業計画の策定やプロモーション活動の推進などさまざま。例えば、企業イベントに出展し、「環境・エネルギー・カーボンニュートラル」をテーマにソリューションを提案する弊社のICT事業についてPRすることも業務のひとつ。社内外の方々と連携・調整しながら企画立案・運営のマネジメントを行っています。

日々の仕事で実感するのは、チーム力の重要性です。個の力が集まり、小さなチームが幾つも重なって大きな組織力が生まれます。仲間の力がなければ、どんな仕事も完遂できません。また、私自身も多くの方のサポートのおかげで、結婚・出産というライフイベントを重ねながら働き続けることができ、感謝しています。

こうして歩んできた人生の根底にあるのは、椙山女学園大学での4年間です。「やりたいことに出来ないことはない」「私は何が出来るだろう」と自分に言い聞かせながら、将来に繋がる力を身に付けるために日々過ごしていました。在学生の皆さんには、大学で多くの経験を重ねながら、自身の可能性を切り拓く強さや柔軟さを育んでほしいと思います。椙山には、その期待に十分応えてくれる環境が待っています。

大学2年次にアメリカオレゴン大学へ短期留学。ホストファミリーとは帰国後も交流が続き、その後も何度かアメリカへ会いに行ったほど。学生時代だから体験できた貴重な経験。

PROFILE

椙山女学園大学文学部国文学科卒業後、西日本電信電話株式会社（NTT西日本）へ入社。現在は、東海支店ビジネス営業部に所属し、ビジネス推進担当課長を務めている。チームメンバーと連携・調整しながら、事業計画の策定・プロモーション活動の推進などさまざまなビジネス展開を図っている。夫と長男・長女の4人家族。

Column 1

学園章

現在、椙山女学園各校の校章の基本となっている学園章。中央の三角は「椙の樹」を、縦の線と外円は「山」という字の形を表しています。真中の三角は教育の目的である「知育・徳育・体育」の三方向を表し、中央の線は三方向を一貫してさらに外円のごとく十全円満な発達を期す学園の理想を表現。上部の少しあいているところは、なお無限に向上発展する意を示しています。

1921（大正10）年制定

コミュニケーションマーク

Sugiyama

椙山女学園の存在意義を強く社会にアピールするため、英文のロゴタイプを基調として、学園の教育理念である「人間になろう」を組み込んだコミュニケーションマークです。マークのアクセントに「i」と「人」の造形を重ねています。まっすぐ健やかに成長する人間性と「人間になろう」の「なろう」の前向きなメッセージを「人」のシルエットで表現しています。シンボルカラーの緑色は、人間が環境と調和して発展していく21世紀の地球を表現し、あたたかい人間性を表現しています。また「他者との関係性」という観点からも、自分を「緑」、他者を「黒」で表しています。

2023（令和5）年制定

学校紹介

教育理念「人間になろう」のもと、保育園から大学・大学院まで一貫した人間教育を行っています。

保育園
梅山女学園大学附属保育園

子どもたちの
健やかな発達のために

幼稚園
梅山女学園大学附属幼稚園

一人ひとりの個性を
大きく伸ばす教育

こども園
梅山女学園大学附属梅山こども園

保育園と幼稚園の
両方の機能をあわせ持つ

小学校
梅山女学園大学附属小学校

未来を見つめる
先進性と国際性を育む

進学

椙山女学園は保育園、こども園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院に約8,000名の園児、児童、生徒、学生たちが集う総合学園です。
「人間になろう」の教育理念のもと、一貫教育を実践・展開。
学園内での進学制度を整備し、自立性・自主性・個性を重視した人間教育を行っています。
今年、創立118周年を迎えた本学園の卒業生は、約15.4万人。
多くの卒業生が社会で活躍しています。

中学校
椙山女学園中学校

豊かな人間性を育成する
主体的な学び

進学

高等学校
椙山女学園高等学校

自分らしく次代を生きる
能力を育成

進学

大学
椙山女学園大学

高い知性と豊かな情操を
身に付けた教養人へ

社会へ

現在、本学園の卒業生は
約15.4万人（延べ人数）
を超え、社会のさまざまな分野で、
それぞれの能力や個性を発揮。
第一線で活躍する人材を
多く輩出しています。

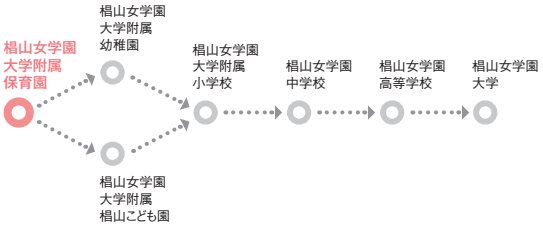
各学校の卒業者数（単位：人）

◆大学（短大を含む）・大学院	62,367
◆高等学校	40,785
◆中学校	23,470
◆小学校	2,861
◆幼稚園	8,202
◆こども園	89
◆保育園	107
◆その他旧制の女学校等	15,904

※令和５年5月1日現在

保育園

椙山女学園大学附属保育園



心・体の育ちを支える

保育目標

椙山女学園の教育理念「人間になろう」に基づいて、
人間形成の基礎を培い、乳児の健やかな成長にふさわしい環境を整えて、
子どもたちの心身の発達を助長することを目指します。

保育方針

一人ひとりを尊重し、情緒の安定を図りながら乳幼児期にふさわしい経験ができるよう援助します。
また、家庭と連携し子育てを支援します。

健康な心と体　よく食べ、よく眠り、生き生きと遊べる子どもに育てます。

人間関係力　人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感を持つ子どもに育てます。

自己発揮　さまざまな体験を通して、興味や関心を持つ子どもに育てます。

豊かな心の育ち　保育士との信頼関係のもと思いやりの心を持つ子どもに育てます。

保育の特色

一人ひとりを大切に

保育士は、子ども一人ひとりの気持ちを受け止め大切にしながら保育を進め、信頼関係を育てています。乳児期の成長発達には個性があります。その個性に合わせて、食事・排泄・睡眠・着脱などの援助を行い、自立を促しています。

心地よくくつろげる環境

子どもたちにとって、保育園は生活の大半を過ごす場所です。本園は、家庭的な雰囲気の中で、ゆったりとくつろげる場でありたいと考え、安心と信頼の中で充実した保育園生活を過ごすことができるよう工夫しています。

安全・健康な環境づくり

日々の保育において、安全面には細心の注意を払い、環境にやさしい安全な教材を使用するなど、細やかな配慮を心掛けています。防災、防犯にも万全の対策を施し、子どもたちがのびのびと遊べる環境を整えています。

遊びながら心も体も育てる

年齢に合わせて発達を促すおもちゃが用意され、繰り返し遊ぶことで、手指や身体機能の発達を促します。また、絵本に親しむ環境を用意し、保育士が読み聞かせを行うことで、豊かな心が育つことを目指しています。

ご家庭との連携を大切に

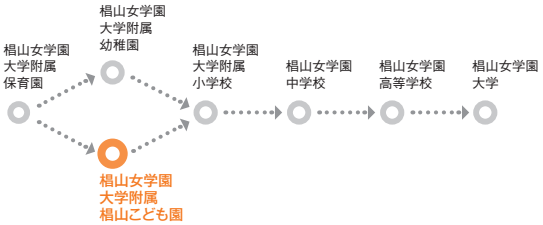
子ども一人ひとりを大切にする保育を行うためには、保護者との連携は欠かせません。園での子どもの姿を綿密にお伝えするとともに、ご家庭での様子を伺い、親子共に、安心して過ごせる保育園を目指しています。

地域の子育てを支援する

保育園の社会的役割のひとつとして、地域の子育て支援を行っています。毎週火・水・木曜日11時15分から12時15分に、地域の子育て家庭を対象に、保育園庭の開放（さくらんぼちゃんのおにわ）を行っています（4月を除く）。

こども園

椙山女学園大学附属椙山こども園



教育・保育目標

椙山女学園の教育理念「人間になろう」にのっとり、
人間形成の基礎を培い、園児の健やかな成長にふさわしい環境を整えて、
園児の心身の発達を助長することを目指します。

教育・保育方針

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、
以下に留意して教育・保育を進めます。

健康な心と体
よく食べ、よく眠り、生き生きと遊べる子どもに育てます。

人間関係力
人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感を持つ子どもに育てます。

主体性
主体的に物事に取り組み、やり遂げようとする子どもに育てます。

自己表現
のびのびと自己を表現する子どもに育てます。

教育・保育の特色

一人ひとりを大切に

乳幼児期の成長発達には個性があります。保育教諭は、その個性に合わせて、食事・排泄・睡眠などの援助を行い、自立を促すとともに、遊びを通して学びに向かう力を育てます。また、子どもの主体性を尊重し、自分らしさを大切にした教育・保育を進めます。

好きになることから始める英語と体育

幼児クラスでは、外国人講師による英語と専門講師による体育の時間を設けています。子どもたちが語学や運動を楽しむきっかけとなるよう工夫しています。また、希望者には課外でも実施しています。

地域の子育てを支援する

地域の子育て家庭を対象に、子育て相談の機会や親子の交流の場などを提供し、地域に根ざした教育・保育を展開します。

ご家庭との連携を大切に

一人ひとりを大切にする教育・保育には、保護者との連携は欠かせません。園での子どもの姿をお伝えするとともに、ご家庭での様子も伺いながら、子どもも保護者も保育者も共に成長し合う環境を目指します。

大学との連携で、質の高い教育・保育を

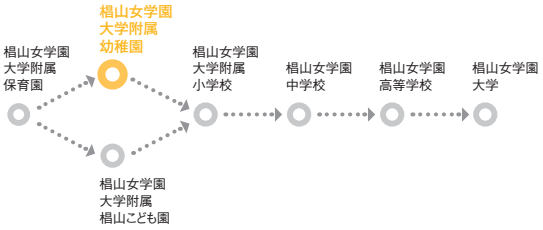
大学の附属園として、さまざまな専門分野の教員などと連携し、質の高い教育・保育を行います。また、食育の推進や地域との関わりを重視するなど、他園にはない特長があります。

附属小学校への推薦入学

卒園後、女子園児には、附属小学校への推薦入学の制度を設けています。本学園は、女子教育の総合学園として、一貫教育を実践。附属小学校から中学校、高等学校、大学へも同様の進学制度を用意しています。

幼稚園

椙山女学園大学附属幼稚園



一人ひとりの積極性や、
自分らしさを大きく伸ばす

教育目標

椙山女学園の教育理念「人間になろう」を根幹とし、
人間性豊かで心身ともに健やかな幼児を育成します。

教育方針

幼稚園教育要領に基づき、以下に留意して教育を進めます。

健康な心と体　心身ともに健康で明るく、元気に満ちた子どもに育てます。

人間関係力　友だちを大切にし、協力して行動できる子どもに育てます。

自己発揮　いろいろなことに興味を持ち、積極的に取り組む子どもに育てます。

道徳性　約束や決まりを守り、思いやりの心を持つ子どもに育てます。

教育の特色

一人ひとりを大切に

人間としての基礎固めの時期である幼児期に、男女共学による保育を実践しています。一人ひとりの積極性や自分らしさを大切にした教育を進め、人間性豊かで心身ともに健やかな幼児を育成しています。

遊び楽しみ、心を育てる

遊びを通して、さまざまなことに興味を持ち、自主的・積極的に考え、活動する力を育てます。また、友だちとの関わり合いを深める中で助け合ったり、我慢したりしながら、思いやりの心と生き抜くたくましさを身に付けていきます。

安全・健康な環境づくり

自然の中でのびのびと遊び、十分に体を動かすことのできる園舎、園庭となっています。教材などは人や環境にやさしい素材を使用し、遊具は設置基準に基づき安全点検を定期的に実施しています。警察署とも連携し、防犯にも万全な対策を行っています。

好きになることから始める英語と体育

外国人講師による英語は、歌やゲームを取り入れて子どもたちが興味を持って意欲的に参加できるように工夫しています。専門講師による体育は、バランスのとれた体づくりを目指すとともに、運動の楽しさを味わえるようにしています。

手づくり給食・預かり保育の充実

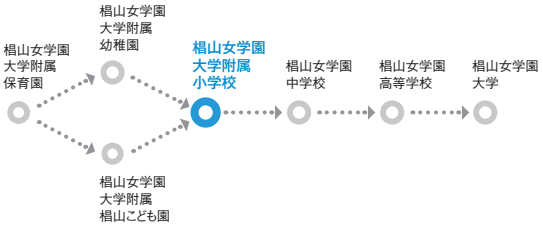
自園調理による安心、安全な手づくり給食を提供し、アレルギーのある園児にも個別に対応しています。また、早朝7時30分からと、保育後は19時30分まで預かり保育を行っています。保護者の事情に合わせて、長期休業中や土曜日にも対応しています。

附属小学校への推薦入学

卒園後、女子園児には、附属小学校への推薦入学の制度を設けています。本学園は、女子教育の総合学園として、一貫教育を実践。附属小学校から中学校、高等学校、大学へも同様の進学制度を用意しています。

小学校

椙山女学園大学附属小学校



知・徳・体の調和のとれた
共創、共生の心を育む

教育目標

教育基本法および学校教育法に基づき、本学園の教育理念「人間になろう」にのっとり、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すことを目的とします。（小学校学則 第3条）

教育方針

椙山女学園の教育理念「人間になろう」、小学校校訓「強く 明るく 美しく」の具現化を目指し、以下に留意して教育を進めます。また、ユネスコスクール認定校として、国際交流やESD（持続可能な開発のための教育）を推進します。

強く　自らの心や身体を鍛え、いのちと自然を尊び、他者と協働しながら共にたくましく生き抜く力を育てます。

明るく　共に学び合う場を通して、深く考え自ら学ぶ態度と基礎基本の学力・活用力を育てます。

美しく　礼節を重んじ、豊かな情操と芸術性を養い、思いやりと品位のある生活態度を育てます。

教育の特色

毎日英語で「使える英語」を身に付ける

ネイティブ講師によるオールイングリッシュの授業を1年生から毎日行います。授業以外にも、校外学習や宿泊研修など、学んだ英語を活用する機会を多く設けることで、さまざまな場面で実践的に「使える英語」が身に付き一人ひとり、確かな英語力を伸ばします。

きめ細かな指導・品位の確立

1クラス30名の学級編成を基礎に、児童一人ひとりにきめ細かな指導を行い、基礎学力の充実を図っています。また、あいさつや言葉遣いなど、基本的な行動様式の指導も重視し、品位ある生活習慣の確立に努めています。

個性を育む多彩な行事・活動

全校合唱や運動会、学習発表会、百人一首かるた大会やなわとび大会、水泳大会など、児童の多様な個性を生かす行事を実施しています。また、全校遠足や縦割り清掃など、学級や学年を超えて、一人ひとりが責任や自覚を持って活躍する機会が多くあります。

先進のICT教育、プログラミング教育

全教室に電子黒板付きプロジェクターを設置。児童は一人一台ずつ持つタブレットPCと先生のパソコンをつないで問題や解答を送受信するなど、主体的に学習する環境を整備しています。また、1年生からロボットプログラミングに取り組み、論理的思考力や問題解決能力を養います。

豊かな国際交流活動

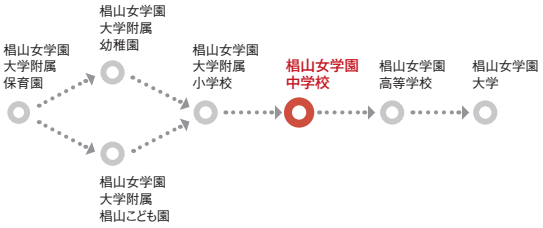
ユネスコスクール（平和や国際的な連携を実践する学校）として、地球環境問題に関わるエコ活動をはじめ、オーストラリアやブルキナファソなどと国際交流を行い、グローバルな考え方を身に付けていきます。

放課後の充実したアフタースクール

宿題をしたり、おやつを食べたり、ゆったり過ごす「学童クラブ」、伝統、スポーツ、学習などの各ジャンルをテーマに講座を行う「クリプトメリアンセミナー」、専門家が講師を務める「スペシャルプログラム」を実施し、児童の健全な成長と社会で活躍する保護者の方々を支援しています。

中学校

椙山女学園中学校



人間性を育成するために
自分自身に出会う

4つの教育目標

椙山女学園の教育理念「人間になろう」を具現化するために、
本校では4つの教育目標を掲げています。
これらは、生徒たちが学園生活全般を通して調和を保って成長し、
椙山の目指す人間性を育成するための“人間教育”の目標です。

体力の増強 健康で鍛えられた身体を育みます。

学力の増進 「生きる力」につながる確かな基礎学力を身に付けます。

モラルの確立 社会的認識の上に立つモラルを身に付けます。

情操の育成 豊かな情操と創造力を育成します。

教育の特色

学園の理念誕生の地に

昭和22年学制改革による新教育制度への転換に伴い、同年4月、椙山中学校を千種区山添町に開校、翌23年椙山女学園中学校と名称を変更しました。椙山正弌初代学園長がその教育理念「人間になろう」を一貫教育の中で追求し始めた歴史ある場所です。

中高一貫体制による カリキュラム編成

本校の生徒は、原則として全員が椙山女学園高等学校へ推薦入学することができます。よって、本校では中高6年間を視野に入れたカリキュラムを編成し、1年次から順次発達段階に応じた教育を実践しています。

個性を育む多彩な行事・活動

総合学習や修学旅行では、現地の方々に話を聞くなど、生徒自身が体験しながら学びます。また、文化祭やクラブ活動など多彩な行事や活動では、個性を伸ばすと同時に、人と協力して物事を成し遂げる力を育みます。

人間を探究する4つの教育目標

教育理念「人間になろう」を具現化するため、①体力の増強 ②学力の増進 ③モラルの確立 ④情操の育成を4つの教育目標として掲げています。人間そのものを探究する教育は、中高一貫教育を早くから実施している本学園だからこそ実現できるものです。

基礎学力を確実に身に付ける授業

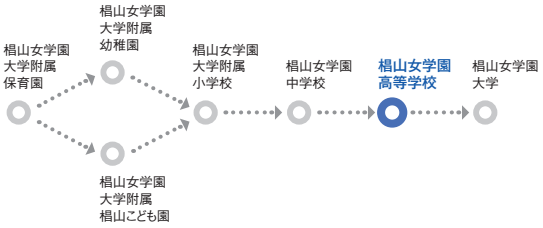
1クラス35名の学級編成によるきめ細かな指導で、基礎学力を確実に身に付けます。知識を詰め込むだけの教育ではなく、楽しく豊かな授業を体験することにより、自分らしい学習活動を可能にしています。

国際的な視野を広げる

生徒が生きた英語を習得できるよう、外国人教員による少人数クラスの英会話教育を行っています。また、長期休暇を利用した語学研修プログラムなどを通じて、国際社会のさまざまな価値観に触れ、国際的な視野を広げます。

高等学校

椙山女学園高等学校



自立した心豊かな女性を目指して
豊かな人間性を育む教育

4つの教育目標

椙山女学園の教育理念「人間になろう」を具現化するために、
本校では4つの教育目標を掲げています。
これらは、生徒たちが学園生活全般を通して調和を保って成長し、
椙山の目指す人間性を育成するための“人間教育”の目標です。

体力の増強 健康で鍛えられた身体を育みます。

学力の増進 「生きる力」につながる確かな基礎学力を身に付けます。

モラルの確立 社会的認識の上に立つモラルを身に付けます。

情操の育成 豊かな情操と創造力を育成します。

教育の特色

歴史ある3校を前身に

学制改革による新教育制度の発足に伴い、それまでの椙山第一高等女学校・椙山女子専門学校附属高等女学校・椙山女子商業学校を合併し、昭和23年、椙山女学園高等学校は開校しました。

4つの教育目標で人間性を育成

教育理念「人間になろう」を具現化するため、①体力の増強 ②学力の増進 ③モラルの確立 ④情操の育成を4つの教育目標として掲げています。また、独自の「総合学習『人間になろう』」の時間を設定し、社会で活用できる能力を養成しています。

国際交流、語学研修を実施

オーストラリア、カナダや台湾との国際交流プログラムなどを通して、生きた英語や外国の文化に直接触れながら、国際社会に生きる価値観を知り、広い視野で考える国際性を養う指導を行っています。

理想的なカリキュラムを実現

1年次は基礎学力の習得を目標とし、2・3年次は各自が進路希望に合わせて履修科目を選択し、大学進学などに備えることができるカリキュラムを実現。また、主体的な学びを育てることを目的とした「土曜講座」を開講しています。

生徒主体の授業を展開

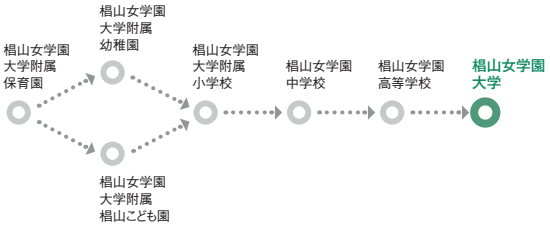
授業では、各自の能力を引き出し、より自発的に学習に取り組む方向性を重視しています。生徒自らが問題提起できる自主性を持ち、主体的に参加するよう指導しています。

椙山女学園大学への推薦入学制度

椙山女学園大学への推薦入学制度が確立されています。本校で培った力をもとに、自分の適性に応じた専門分野の高度な探究を目指して、それぞれの学部・学科へ進学することができます。

大学

椙山女学園大学


椙山女学園
大学附属
保育園
椙山女学園
大学附属
幼稚園
椙山女学園
大学附属
椙山こども園
椙山女学園
大学附属
小学校
椙山女学園
中学校
椙山女学園
高等学校
椙山女学園
大学

高い知性と豊かな情操を兼ね備えた
人間の育成
ASIA
NORTH AMERICA
OCEANIA
SOUTH AMERICA

教育目的

教育基本法（昭和22年法律第25号）と学校教育法（昭和22年法律第26号）
に基づき、本学園の教育理念「人間になろう」にのっとり、
大学では、深く専門の学術を教授研究し、もって高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人間を育成することを目的としています。（大学学則第1章 目的）
また、大学院では、学術の理論および応用を教授研究し、その深奥をきわめて、
文化の進展に寄与する人間を育成することを目的としています。（大学院学則第1章 目的）

知識・理解　人間と社会、自然と文化に関する基礎的な知識を持ち、物事の成り立ちや人の心情を深く理解する力

思考・判断　さまざまな事象を客観的・科学的に捉え、その課題と解決方法について自らの考えを論理的に導き、提示することのできる力

態度・志向性　人、社会、世界とのつながりの中でより良く生きるための良識や社会性、倫理性を備え、主体的に課題に取り組む姿勢

技能・表現　自らを特徴づける専門的かつ高度な知識や技能を持ち、社会との対話の中で共感的に表現し自らを生かすことのできる力

教育の特色

女子総合学園の理想郷を目指す

「女性により高い教育を」という創設者椙山正弐の強い信念のもと、戦後わが国最初の家政学部のひとつとして誕生。以来、「人間になろう」の教育理念を掲げ、人間教育を貫いています。

「トータルライフデザイン教育」の展開

女性が仕事と生活との最適なバランスを図りながら、結婚や出産などの転機を乗り越えることを支援する「トータルライフデザイン教育」を展開。社会で自立して生きていくための就業力を養成し、自ら考え判断できる女性として、社会に貢献できる力を育んでいます。

海外の大学、企業や地域との連携

本学は、学外の各種機関、企業などとの連携教育を進めています。また、生涯教育事業や公開講座、フォーラムなどを通じて社会貢献の充実を図り、地域社会に開かれた大学として継続した活動を行っています。

真の女子総合大学へ

家政学部の単科大学としてスタートした本学は、時代のニーズに応える的確な大学改革を重ね、7学部11学科、大学院4研究科を擁し、約5,400名が学ぶ女子総合大学へと発展しています。

社会に貢献する自立した女性の育成

本学の教育は、学生が主体的に社会と関わり、自発的に学ぶことが特長です。企業や地域との連携・協働を通して、社会に貢献する自立した女性を育成しています。

就職力を一人ひとりに

本学は、全国の大学の中でもトップクラスの就職率を維持しています。キャリア育成センターを中心に、きめ細かなサポート体制を整え、学生が生涯にわたるキャリアを見つめ、一人ひとりが自分らしく活躍できる職業選択を支援しています。

大学・大学院

7学部〈11学科〉
4研究科〈6専攻〉

生活科学部

大学
星が丘キャンパス

人間と生活を
科学の目から見つめ、
健やかで快適な暮らしが
提案できる人材を育成

◆管理栄養学科
◆生活環境デザイン学科

教育の特色
- 人間と生活を科学の目から見つめる
- 臨床福祉、食品産業などの分野で活躍できる管理栄養士を養成
- アパレル・インテリア・建築をデザインし、快適な生活環境を創造

国際コミュニケーション学部

大学
星が丘キャンパス

語学力・国際教養・
実践力を身に付け、
グローバル社会で
活躍する人材を育成

◆国際言語コミュニケーション学科
◆表現文化学科

教育の特色
- コミュニケーション能力を備えた言語・文化の専門家を育成
- 語学力と国際感覚を身に付け、グローバルに活躍
- 文化を幅広く学び、グローバル社会を理解する

人間関係学部

大学
日進キャンパス

人間と
人間関係に関する
さまざまな問題を
解決する能力を養成

◆人間関係学科
◆心理学科

教育の特色
- 人やこころの多様性理解を基盤とした「人間関係力」の育成
- ジェンダー、福祉、若者の視点から共生社会を探究
- 生活・社会で役立つ「心理学的力」の獲得

文化情報学部

大学
星が丘キャンパス

文化や社会の変化に
対応可能な
情報とメディアの
実践力を養成

◆文化情報学科
◆メディア情報学科

教育の特色
- 情報とメディアを積極的に活用する実践力を養う
- 多様な文化の情報社会で求められる知識と教養を学ぶ
- 情報を正しく理解・活用・発信する「メディア力」を修得する

現代マネジメント学部

大学
星が丘キャンパス

現代社会における
さまざまな場面を
マネジメントする
能力を養成

◆現代マネジメント学科

教育の特色
- ビジネスや公共政策の基礎となる社会科学の幅広い学び
- 資格スキルの取得によるキャリア形成
- 体験型の学びによる即戦力の獲得

教育学部

大学
星が丘キャンパス

**十分な指導力と
人間的な
魅力にあふれた
保育士・教員を養成**

◆子ども発達学科　保育・初等教育専修／初等中等教育専修

教育の特色

- 1年次からスタートする多彩な実習
- 複数資格・免許を取得し、将来を拓く
- 先生として成長し続ける力を育成

看護学部

大学
星が丘キャンパス

**豊かな人間性と
確かな看護実践力を
兼ね備えた
看護職者を育成**

◆看護学科

教育の特色

- 学際性豊かな学びが豊かな人間性を育む
- 演習・実習で身に付ける確かな看護実践力
- 多彩な実習先での経験で視野を広げる

生活科学研究科

大学院
星が丘キャンパス

**人類が直面する
問題を克服し、
活力ある持続可能な
人間生活を構築する**

◆人間生活科学専攻（博士後期課程）
◆食品栄養科学専攻（修士課程）
◆生活環境学専攻（修士課程）

教育の特色

- 時代を担う研究者を養成し、高度な専門的能力で社会に貢献
- 食と健康分野の高度な専門知識を持った人材を育成
- 生活環境を幅広い視点から追究

人間関係学研究科

大学院
日進キャンパス

**心理的問題や
社会の課題を解決し、
人々の自己実現
を支援**

◆人間関係学専攻（修士課程）

教育の特色

- 高度な専門的職業人を養成し、社会に貢献
- こころの専門家としての公認心理師・臨床心理士を養成
- 人間共生をテーマに現代社会の問題解決を目指す

現代マネジメント研究科

大学院
星が丘キャンパス

**イノベーション
マネジメント能力で
ビジネスを創造し
新しい価値を生み出す**

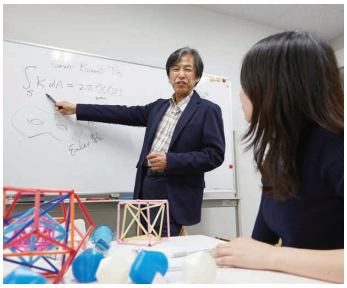
◆現代マネジメント専攻（修士課程）

教育の特色

- 新しい顧客価値を創造する人材を養成
- 3つの領域から「イノベーションマネジメント能力」を育成
- 経験豊富なゲストから戦略的に思考する力を学ぶ

教育学研究科

大学院
星が丘キャンパス



**教育について
探究し続ける
高度専門職業人
としての教員を養成**

◆教育学専攻（修士課程）

教育の特色

- 高い実践的指導力を備えた探究し続ける教員を養成
- 数学・音楽を中心とした教科教育と学校教育・幼児教育研究
- 実践的な研究の場として、長期教職インターンシップを必修化

Column 2

学園歌

作詞　長谷部 親弘　　作曲　片山 穎太郎

ああ業(わざ)は難(かた)し
ああ道はとおし
されど
励まば　などか　成らざらむ
至らで　やまむ　我ならず
この学園(には)よ
我等が輝ける　希望(のぞみ)を
容れて　余りあり
いざやいざ
撓(たゆ)まず　倦(う)まず　朝夕に
真理(まこと)の道を　踏みわけて
心を磨き　身を鍛(きた)ひ
光ある世の　人たらむ

この学園歌は歌人の長谷部 親弘氏に歌詞を、東京音楽学校（現 東京藝術大学）教授の片山 穎太郎氏に曲を依頼し、学園創立30周年の1935（昭和10）年に制定されました。歌詞は初代学園長椙山 正弌の希望により、金剛鐘の奏でる『金剛石』の歌になぞらえた勧学の内容となっています。

唱歌「金剛石」

御歌　昭憲皇太后　　作曲　奥 好義

金剛石もみがかずば
　　玉の光はそはざらむ
人も学びて後にこそ
　　まことの徳はあらはるれ
時計の針のたえ間なく
　　めぐるが如く時のまの
日かげ惜しみて励みなば
　　如何なる業かならざらむ

毎朝8時30分、金剛塔から響く美しい鐘の音が学園の一日のはじまりを告げます。初代学園長椙山 正弌がカリフォルニア大学を訪れた際、美しい鐘の音と静かに祈る学生や道行く人々の姿に感動し、「本学園にもそのような鐘を」という思いは、それから10年後に実現しました。ロンドンのジレット&ジョンストン社に注文した鐘は、1931（昭和6）年、“白亜の殿堂”と称された椙山第二高等女学校の校舎に取り付けられました。唱歌『金剛石』のメロディーを奏でるこの鐘は『金剛鐘』と名づけられ、以来、学園のシンボルとして奏鳴係の生徒の手で、今日まで授業日や行事日には毎朝、荘重に演奏されています。

OPEN CAMPUS
SUGIYAMA JOGAKUEN
OPEN CAMPUS
SUGIYAMA JOGAKUEN
OPEN CAMPUS

にゅうがくしゃ

SUGISHO

福

学園の取り組み

人間学の探究

「人間になろう」の理解と実践へ

椙山人間学研究センター

■教育理念「人間になろう」の具体的展開

本センターは、本学園の成立経緯および教育理念「人間になろう」を研究し、教育に活用していくことを目的としています。人文・自然・社会科学分野の学際的・融合的研究を行うとともに、学園全体の「一貫教育」「連携教育」「人間教育」の具体的展開を目指した研究にも力を注いでいます。

■新たな人間についての「知」の研究拠点へ

本センターは、21世紀を切り拓く新たな人間についての「知」の総合的調査研究、理論的追究、開発を行い、その成果を発信する研究拠点です。研究成果を広く学界、一般社会、地域に向けて発信し、学園全体の教育研究の活性化を図っています。

■各校との連携

保育園から大学・大学院までの専門を異にする教員が交流しながら、各校の枠を超えた幅広い視野で研究を展開しています。その成果は各校へ還元され、さらなる教育的深化や学術振興に資する役割を担っています。

■今後の展望

本センターの1年間の研究成果・活動をまとめた年誌『椙山人間学研究』の発行、著名な知識人を招聘して行うフォーラム（年1回）をはじめ、さまざまな分野の方が講師を務める人間講座（年4回）を開催し、情報を発信。今後は、椙山女学園独自の「人間学」をさらに確固たるものにし、価値の高い学術成果を生み出していくことを目指します。

■大学

教育理念「人間になろう」を授業科目の形で追究する全学共通科目「人間論」は、「自校教育」「大学での学び・キャリア教育」「学問的人間論」の3つの柱から構成されています。自校史および教育理念を理解し、自身の未来と大学での学びのつながりを意識し、キャリア教育の出発点とするとともに、さまざまな学問領域から「人間」の多様な側面に触れます。

■高等学校・中学校

総合学習「人間になろう」では、「人権」「環境」「国際理解・平和」の3分野を中心に、学園の教育理念「人間になろう」の意味を探究します。各教科で得た知識を生かし、図書やICTを活用しながら、自らの問題意識に基づき調査・研究・まとめ・発表する学びを通して、現代社会を生きる「人間力」を培っていきます。

■小学校・幼稚園

小学校では、ユネスコスクール認定校として、ESD（持続可能な開発のための教育）を推進し、国際交流や環境問題に積極的に取り組んでいます。幼稚園では、人や自然や生き物に親しむ活動を日常的に展開し、幼児のすこやかな成長にふさわしい環境を整え、心身の発達を助長することを目指しています。

椙山人間学研究センターの活動内容や詳細は
Webサイトをご覧ください。

食育からの人間教育

食育を通して、生涯にわたる「生きる力」を養成

食育推進センター

■食育を人間教育の一環に

本学園は、教育理念に基づく人間教育の一環として、食育に関する事業を総合的かつ計画的に推進するため、平成19年に本センターを設置しました。主な業務は、「食育に関する講演会の開催」「学園内飲食施設との連携および支援」「食育に関する事業の企画、立案および実施」「食育関連事業への支援」「食育に関する研究」などであり、多彩な企画・事業を立案・実施しています。

■椙山女学園食育推進基本指針

平成20年には、総合学園の特色を生かした食育推進の基本的な考え方をまとめた「椙山女学園食育推進基本指針（「食」を通して「すこやかな人間」を育成するために）」を策定。各園・校において子どもたちに育てたい「『食』に関する力（知識・技術・行動など）」を明らかにし、具体的な指針のもと、食育を推進しています。

「椙山女学園食育推進基本指針」

～「食」を通して「すこやかな人間」を育成するために～

1 椙山女学園が推進する食育

椙山女学園で学ぶ子どもたちが、生涯にわたって、自分らしく、いきいきと暮らすことができるよう、「すこやかな人間:『健康な人間』『こころ豊かな人間』『環境にやさしい人間』」を育成するための食育を推進する。

2 「すこやかな人間」を育成するために培いたい「食」

（1）健康を守り育てる「食」
- 規則正しい食
- バランスがとれた食
- 安全な食

（2）豊かなこころをはぐくむ「食」
- 家族や友だちなどと楽しくいただく食
- 正しいマナーでいただく食
- 文化を大切にする食
- 感謝していただく食

（3）環境にやさしい「食」
- 環境と調和した食

3 保育園、こども園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学・大学院において培いたい「『食』に関する力（知識・技術・行動など）」

全体像につきましては、食育推進センターのWebサイトに掲載しています。

■大学

全学共通科目「人間論」で食と健康に関する知識を教授するとともに、学内の食環境整備に取り組んでいます。具体的には、全メニューに「食事バランスガイド」を表示することによって、学食のメニューが“1日に必要な食事のどれくらいに相当するのか”を一目で確認できるようにし、また、1日に必要なカロリーや栄養素の3分の1を摂取できる「ヘルシーメニュー」を提供しています。さらに、体験型の料理教室や栄養相談会を実施し、学生が健全な食生活を送ることができるよう支援しています。

■高等学校・中学校

リーフレット「椙中生・椙高生のための食事バランスガイド」を配付し、食に関する指導を行っています。教室やランチルームには、食育に関するポスター掲示などを行い、生徒たちが日常的に「食」を意識できる環境を整えています。ランチには、地元の野菜を使用した安全でおいしいメニューを提供しています。授業では、和食の基本「だし」の取り方をはじめ、伝えていくことの大切さを学んでいます。

■小学校・幼稚園・こども園・保育園

小学校では、年中行事に関連した給食の提供をはじめ、日本の伝統食や外国の料理を食する機会を設けるほか、PTA・大学の協力のもと、食育指導を行っています。幼稚園・保育園では、園庭で自分たちが栽培した野菜を調理して食べることで、食への意欲関心を育てています。こども園では、栄養士などが献立作成、調理を行い、食育を推進しています。

食育推進センターの活動内容や詳細は
Webサイトをご覧ください。

情報教育の推進

多様化する情報リテラシーの養成

学園情報センター

本センターは、学園全体のネットワークおよび関連サーバーの整備・運用、大学の各学部と協力した情報演習室の整備、事務部門の情報処理環境（サーバー、パソコンなど）整備を行っています。スマートフォンやタブレットの普及により、学園内の無線ネットワークの拡充を図るほか、クラウドサービスの活用や学生のメールにGmailを導入するなど、ニーズに即した情報サービスを提供しています。

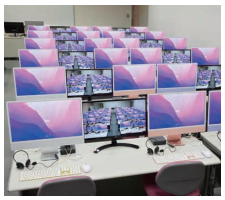
大学情報教育開発センター

本センターは、情報リテラシー教育の充実を目指し、「コンピュータと情報I」の全学必修化を行い、入学時点における学生の修得レベル調査（毎年継続実施）、学部共通ガイドラインの策定・改訂を実施してきました。また、情報リテラシー教育をサポートする人材として、TS（Teaching Staff:他大学院生）、TA（Teaching Assistant:本学大学院生）やSA（Student Assistant:本学学生）の制度を運用しています。さらに、情報関連の資格（ITパスポート、基本情報技術者、マイクロソフト社MOSなど）取得を支援する自主学修用教材の整備を進めています。

■情報セキュリティへの取り組み

本学園は、外部からの不正な攻撃などの対策として、セキュリティソフトによるウイルスチェック、ファイアウォールの強化、メールセキュリティのクラウドサービスなどを導入しています。また、大規模災害やマルウェアへの対策として、貴重なデータは外部にもバックアップを図るほか、物理サーバーの仮想化や外部接続回線の多重化など、安全性を高めています。

■大学



大学には1,500台以上のパソコンがあり、基礎から専門まで幅広い情報教育に対応した環境を整えています。また、キャンパス内には無線ネットワークが整備され、スマートフォンやタブレットPCを快適に使用することができます。

■高等学校・中学校

高校の情報科や中高それぞれの総合的な学習の時間など、多くの授業でICTを積極的に活用し、新しい入試制度や学習内容に対応した授業展開を目指しています。授業後もクラブ活動や自学自習の課題などで自由にICTを活用することができます。

■小学校

一人一台のタブレットPCを1年生から活用しています。各教科や総合的な学習にそのスキルを生かし、発表活動を盛んに行っています。また、先進的なプログラミング教育も実施しています。

■幼稚園

園児たちが初めて見る生き物や興味のある自然事象などを撮影して調べたり、自分たちの姿を客観的に捉えるために表現発表の練習風景を撮影して見せ合ったりするなど、保育の中でタブレットなどを活用しています。

図書館・読書環境の充実

学びの段階に応じて最適な環境を整備

中央図書館　日進図書館

小学校図書室

高等学校・中学校図書館

幼稚園・保育園えほんのへや　こども園えほんのもり

■大学図書館（中央図書館・日進図書館）

星が丘キャンパスに中央図書館、日進キャンパスに日進図書館があり、学生はその両方を利用できます。蔵書数は現在約46万冊。図書館所蔵資料は、図書館Webサイトにある蔵書検索（OPAC）を使ってどこからでも検索ができます。また、学内LANに接続されたパソコンであれば、中日新聞や朝日新聞、日本経済新聞をはじめとする各種オンラインデータベースの利用による情報収集も可能です。これらのデータベースを利用したガイダンスや、学生ライブラリーサポーターによる企画展示などの広報活動やスタンプラリーなどを実施し、学生参加による選書ツアーも行っています。

また、地域社会との連携を推進するために、一般女性や女子中高生を対象に本学図書館を開放しています。さらに社会的貢献を積極的に進めるため、椙山女学園大学学術機関リポジトリによって、本学における研究成果へのオープンアクセスを可能にし、令和3年度までに本学研究論集、各学部紀要、博士論文など1,887本を公開しています。

学生のより主体的な「学修の場」を提供することを目的とした、中央図書館にあるラーニングコモンズ：i（アイ）サークルでは、プレゼンテーションの準備やゼミ発表のリハーサルなど、複数の学生で討議しながら学修を進めることができます。また、文化系クラブ・サークルの日頃の活動成果を発表する場として利用することもできます。一方、日進図書館では、飲食可能なテラス席を設置。天気の良い日には仲間と会話を楽しむことができるなど、その用途は広がっています。

■高等学校・中学校図書館

約10万冊の蔵書を有する図書館では、常駐の司書が丁寧なレファレンスを行い、読書活動をサポートしています。また、年間400時間の授業が図書館で行われ、蔵書だけではなく、各種オンラインデータベースも利用したさまざまな学習活動が展開されています。

蔵書については、図書館Webサイトにある図書館蔵書検索（OPAC）を使って自宅から本校図書館での有無が確認でき、在校生だけではなく保護者や卒業生の図書館利用にも役立っています。さらに、令和4年度からは、全校生徒に向けて電子書籍を導入し、電子図書館としての活用の幅も広がっています。

■小学校図書室

約8,000冊の蔵書を有する図書室は、読み聞かせコーナーを設けた明るくてゆとりのある読書空間です。保護者のほか、学校司書による読み聞かせを定期的に行っています。学校司書と連携し、図書室だよりの発行や新刊の図書紹介、図書室の整備など、児童が本に親しむ機会が増えるよう努めています。

■幼稚園・保育園えほんのへや

絵本による教育を重視する本園の象徴として、「えほんのへや」を開設。33㎡の室内には、約3,000冊の絵本や図鑑、紙芝居を用意し、園児たちが自由に物語の世界を楽しむ環境を設けています。また、毎週土曜日と長期休業期間には一般開放し、閲覧や貸し出し、教員による読み聞かせを行っています。

■こども園えほんのもり

中庭をぐるりと囲む回廊や各廊下は「えほんのもり」となっており、子どもたちが自由に手に取って絵本を楽しめる空間となっています。

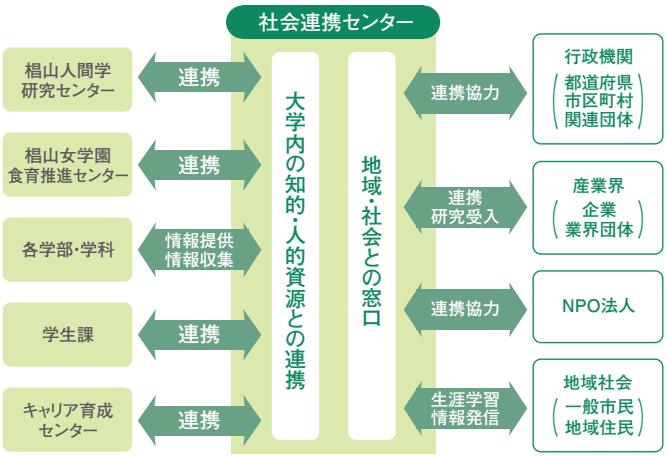
地域社会との共生

地域社会と歩調を合わせ、その発展に貢献

社会連携センター

本センターは、地域および社会からのさまざまな要請に応え、その活性化と持続的発展に貢献することを目的として、平成28年にスタートしました。従来からの椙山オープンカレッジ事業により、生涯学習の機会の充実を図るとともに、地域の行政機関、産業界などとの連携を取りまとめる総合窓口としての役割を担い、地域・社会との連携に関する情報の収集および発信に取り組んでいます。

社会連携センター組織図



■椙山オープンカレッジ

椙山オープンカレッジは、学園の有する人材および施設・設備などの資源を活用して、広く一般に生涯学習の機会を提供し、社会に貢献することを目的としています。会員制で、年齢、性別、学歴を制限することなく入会できます。令和5年度は、資格取得試験対策を中心に計49講座を提供しています。

■連携講座・講師派遣

社会連携センターでは、公共団体などに学内の教員を講師として派遣し、また、学内の施設を利用した連携講座を実施することで、生涯学習の場を幅広く提供しています。大学での教育研究の成果を地域社会に還元し、地域の方々に貢献できる“学び舎”を目指しています。

■地域との交流

地域に開かれた心の相談室として「臨床心理相談室」を設置。人間関係学部の臨床心理学を専門とする教員が中心となり、発達障害（自閉スペクトラム症やADHDなど）や不登校などのさまざまな心の相談について、カウンセリングや遊戯治療を行っています。また、複合型児童福祉施設「中日青葉学園」や日進市教育委員会と協力し、相談室での遊戯治療の受け入れや無料相談、本学教員による巡回指導などを実施しています。

社会連携センターの活動内容や詳細は
Webサイトをご覧ください。

国際交流の促進

海外の学校と積極的な交流を展開

■大学

海外研修には、国際交流センターが主催する交換留学プログラムと各学部による多様な海外留学・海外研修プログラムがあり、例年約200名の学生が参加しています。交換留学プログラムは、アメリカ、カナダ、オーストラリア、中国、台湾、韓国、タイ、マレーシアの10大学と交換留学協定を結び、相互に最長1年間の学生交換を行っています。交換留学先で修得した単位の一部が本学の卒業単位として認定されるため、4年間での卒業も可能です。そのほかにも、休学することなく留学できる派遣留学制度や認定留学制度を設けています。

■高等学校・中学校

オーストラリア・ブリスベンの Lourdes Hill Collegeを姉妹校とし、相互訪問を通じて交流しています。また、カナダ・トロントのサマースクールでは、語学研修などを実施しています。外国人講師による授業や海外での研修を通じて、国際社会のさまざまな価値観を学びます。

■小学校

少人数での英語学習を1～6年生まで毎日実施し、英語の基礎的知識とコミュニケーション力を養成します。令和4年度は、コロナ禍で、海外渡航が難しい中、台湾やタイとオンラインで交流しました。また、ハイブリッド型国内英語研修では、オーストラリア、ニュージーランドとオンラインでつなぎ、観光やホームステイなどを行っています。

■幼稚園・こども園

幼児期から英語に親しめるよう、外国人講師による歌やゲームで楽しく英語に触れられるプログラムを実施しています。

高等学校・中学校

研修先
○姉妹校 Lourdes Hill College（オーストラリア・ブリスベン） ○語学研修（カナダ・トロント） ○台湾との交流研修

小学校

研修先
コリジンスクール（オーストラリア・パース） クーリンスクール（オーストラリア・パース） グレーニースクール（オーストラリア・ブリスベン）

キャリア教育の取り組み

組織的体系的に社会人基礎力を育成

■大学

本学では、「トータルライフデザイン教育」を展開しています。女性が社会で自立して生きていくための知識・能力を身に付け、それぞれのライフステージごとの課題を乗り越えていくために、生涯というタイムスパンで自分自身の人生設計を行うことができる力を養います。全学、学部・学科およびキャリア育成センターがそれぞれの立場から学生のキャリアを共に考えていきます。

全学教育

●全学共通科目「人間論」：豊かな人間形成と自己実現を支援

「自校教育」「大学での学び・キャリア教育」「学問的人間論」の3つを柱とした学部を超えた交流型授業です。学生一人ひとりの「未来予想図」実現のため、生き方を含めた広義のキャリア教育として、新入生全員が受講します。

●教養教育科目「女性とキャリア」領域：社会の要請に応える基礎的能力の育成

女性として社会で活躍できる基礎的能力・スキルを育成するとともに、自らライフデザインを描き、キャリアを形成するための基礎的能力を育成します。

学部・学科教育

各学部・学科での専門的な学びを将来につなげるため、社会的・職業的自立を念頭に、「生涯キャリア科目群」「生活領域キャリア科目群」「実践キャリア科目群」に大別したキャリア関連科目を各学部・学科で設定しています。

キャリア育成センター

本センターは、キャリア教育と就職活動・進路選択の支援を通して、学生たちのキャリア形成をサポートする機関です。キャリア教育に関するプログラムや就職ガイダンスなどのイベント、個人面談など個別支援により、キャリア意識の形成を図っています。

■高等学校

本校では、早期から進路への意識を啓発し、具体的な志望校、学部・学科選びまで、生徒一人ひとりの希望に沿ったきめ細かな指導を行っています。椙山女学園大学への進学を希望する生徒には、2年次から大学教員による学部説明会を、3年次には卒業生との懇談会を開催し、進路決定に向けて指導します。他大学への進学を希望する生徒には、外部進路情報を提供し、学力補充のための講座や補講を実施します。

■中学校

本校では、幼稚園実習や職業体験のような具体的な経験はもちろん、卒業生の話や地球市民教室、文化祭や修学旅行に至るまで、将来について考える上で糧となるさまざまな刺激を与えています。目的意識を持たせるとともに、選択の幅を持たせるように、進学指導だけにとどまらないキャリア教育を行っています。

■小学校

本校では、児童の発達段階に応じて、子どもたちが自分の成長に気づき、長所や可能性を認めることにより、将来の夢や希望を持つことができるよう指導しています。また、外部講師を招き、職業体験に結びつく活動を通して、現代社会を生きる上で必要な資質・能力となるシティズンシップを育てるキャリア教育を推進しています。

椙山女学園 同窓会

母校とともに歩んだ歴史

学園創立の翌年の1906（明治39）年に、卒業生・在校生が恩師を交えて和合親睦を目的に「和風会」を設立。それが今日の同窓会となり、発足から117年、母校の歴史とともに歩んでいます。現在は、学園同窓会として、小学校同窓会、高等学校・中学校同窓会、大学同窓会と5つの支部から構成されています。同窓会は入学時の入会金と卒業後の年会費により運営され、会員相互の親睦と啓発、母校の発展への貢献、在学生支援、地域社会の発展への寄与などを目的として、会報発行をはじめ各周年行事、講演会、バス旅行、オープンカレッジや各種講座などの開催、在校生への奨学金給付や寄贈、卒業記念品進呈など、多岐にわたり活動しています。

同窓会活動について

●同窓会企画行事

周年行事、講演会、バス旅行や観劇会、卒業生講師による各種講座など、同窓生の交流と知識の向上を図るさまざまな行事を開催。オープンカレッジ連携講座は、卒業生以外の方にも開講しています。

●同窓生、在校生支援

各校の卒業式で記念品を贈呈するほか、「椙山女学園同窓会奨学金」を給付し頑張る在校生・在学生を応援しています。また、会報やWebサイトにおいて、同窓生の活躍を紹介しています。

●同窓生への情報提供

会報やWebサイトで行事案内や活動内容を発信。住所変更の受付や同窓生名簿のデータ管理、クラス会開催準備をサポートしています。

同窓会組織図

- 椙山女学園同窓会（いとぎく会）
  - ■大学同窓会
    - ■大学院　生活科学研究科（家政学研究科）
    - ■大学院　人間関係学研究科
    - ■大学院　現代マネジメント研究科
    - ■大学院　教育学研究科
    - ■家政学部（女子専門学校）
    - ■生活科学部
    - ■短期大学部
    - ■文学部
    - ■国際コミュニケーション学部
    - ■人間関係学部
    - ■文化情報学部
    - ■現代マネジメント学部
    - ■教育学部
    - ■看護学部
  - ■高等学校 中学校 同窓会
    - ■高等学校
    - ■中学校
    - ■高等女学校
      - （椙山女子商業学校）
      - （椙山女子専門学校附属高等女学校）
      - （椙山女学校）
      - （椙山第二高等女学校）
      - （椙山第一高等女学校）
      - （椙山高等女学校）
      - （名古屋裁縫女学校）
  - ■小学校同窓会
  - ■支部会
    - ■愛知支部　（コスモス会）
    - ■岐阜支部　（れんげ会）
    - ■三重支部　（花菖蒲会）
    - ■東日本支部（なでしこ会）
    - ■関西支部　（すみれ会）

いつも同窓生に寄り添った存在でありたい同窓会

同窓会活動の目的は、大学、高等学校・中学校、小学校の同窓会、地域の5支部を含めた多くの卒業生と関わることです。そして目標は、卒業生間の交流です。組織の中の各機関は年間を通して多くの行事を開催しています。ただ、2020（令和2）年からコロナ禍で全ての行事が中止されておりますが、日常が戻ってくれば早々に動き出しますので、同窓生の皆さまをお誘いの上、各種行事に是非、ご参加していただければ幸いです。

同窓会は、いつも同窓生に寄り添った存在でありたいと願っております。皆さまと一歩ずつ進んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

椙山女学園同窓会（いとぎく会）
〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17番3号
TEL（052）781-5952　FAX（052）781-7197
E-mail:itogiku@og.sugiyama-u.ac.jp

椙山女学園同窓会の活動内容や詳細は
Webサイトをご覧ください。

歴史文化館

ここには椙山の「これまで」と「これから」がある

「人間になろう」を教育理念に掲げ、
2025（令和7）年に創立120周年を迎える椙山女学園。
歴史文化館は、椙山女学園のルーツを知り、
アイデンティティを考える場所として、
2009（平成21）年に誕生しました。

学園の歴史的な資料を展示 椙山の教育を体現してきた 学生・生徒・教職員の活動を紹介

■歴史展示室 …… ①

明治時代からの歴史資料を通じて、椙山女学園の歴史的な位置付けや教育理念、学園の基礎を築いてきた学生・生徒・教職員の活動を紹介しています。

■大学史コーナー …… ②

社会情勢に見る女性の活躍と照らしながら写真映像とともに、大学の歴史を見ることができます。

■裁縫雛形保存・展示コーナー …… ③

学園の出発点である裁縫教育では、多種類の衣服を裁縫雛形（実寸大の3分の1の大きさ）として製作しました。ここには、500点以上が収蔵されています。

創設者椙山正弌・今子夫妻の 人と生活に触れる

■正弌記念室 …… ④

金剛塔の内部に設けられたこのエリアでは、本学園の創設者である椙山正弌・今子夫妻の人と生活を知ることができます。

学園とともに歩んで来た方々との 交流ができる企画展示の場

■企画展示コーナー …… ⑤

当館所蔵の資料や学園に関係する方々の作品、研究成果などを展示し、交流を深める企画展示の場として利用しています。

日程	展示内容
令和4年 4月 1日～ 令和4年 7月29日	寄贈品展ー思い出の回廊ー
令和4年 9月28日～ 令和4年12月23日	室町時代物語と昔話
令和5年 4月 5日～ 令和5年 7月28日	所蔵絵画展

※令和４年度から令和５年度前半の実施状況

①

①

②

③

④

⑤

覚王山周辺の歴史に触れる

山添展示室

山添キャンパスの生徒・児童・園児たちが、椙山女学園の歴史に
日常的に触れられるよう、2015（平成27）年、山添キャンパスに
「歴史文化館 山添展示室」を設置しました。
在校生が自身の在籍する学校の歴史を知る場所として、
また、学校説明会やオープンスクール、
文化祭などで来校された方が
椙山女学園の歴史を感じる場として活用されています。

幼・小・中・高の歴史を紹介する展示室

■山添展示室

ここでは主に、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教育活動の歴史を展示しています。あわせて地域（名古屋市千種区覚王山地区）の歴史も紹介。学園と地域の今と未来を考える場となっています。

壁面の展示 …… ⑥

壁面には、学園と地域の2つの歴史年表を展示しています。写真や図版を多く取り入れるなど、見やすく分かりやすい工夫をしています。

展示棚・展示ケース …… ⑦

展示棚には、中学校・高等学校のクラブ活動の歴史を語るトロフィーや表彰楯などを展示。展示ケースには、学園にまつわる記念品や歴史的模型などを展示しています。

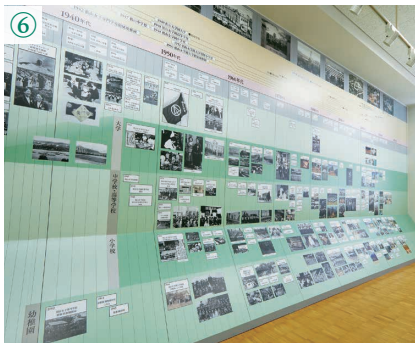
マガジンラック

昭和時代からの中学校・高等学校の教育活動（学校行事や生徒会活動など）の資料や、各学校の刊行物・印刷物を展示。手に取って読むことができます。

視聴覚コーナー

設置しているタブレットPCでは、歴史文化館のWebサイトを閲覧し、椙山女学園の詳しい歴史や所蔵品、コレクションの画像データベースなどを見ることができます。

⑥

⑥


⑥

⑦

⑦

歴史文化館長／椙山 美恵子
歴史文化館（星が丘キャンパス 中央図書館4階）
開館時間:水・金曜日10:00～17:00
〒464-8662　名古屋市千種区星が丘元町17番3号
TEL（052）781-4590（直）

歴史文化館の
活動内容や詳細は
Webサイトをご覧ください。

歴史文化館 山添展示室（山添キャンパス）
開館時間:平日8:20～17:00、土曜日8:20～12:00
〒464-0832　名古屋市千種区山添町2丁目2番地
TEL（052）751-8131（代）

Column 3

学園公式タータンチェック

2012（平成24）年6月、学園内で長年使用されているチェック柄を国際登録し、学園の公式タータンチェックとしました。登録したチェック柄は椙山女学園中学校・高等学校の補助バッグなどで長年使用されているもので、タータン発祥の地、スコットランドで世界のタータン柄の認定を行う政府行政機関スコットランド・タータン登記所（The Scottish Register of Tartans）に申請し、正式登録されました。

学園公式グッズ

▲園児や児童、生徒が使用するカバン類

▲手提げ袋、ミネラルウォーター、クリアファイル

■建物配置図

星が丘キャンパス

大学・大学院

- 生活科学部
- 国際コミュニケーション学部
- 文化情報学部
- 現代マネジメント学部
- 教育学部
- 看護学部
- 生活科学研究科
- 現代マネジメント研究科
- 教育学研究科

A 生活科学部棟
B 国際コミュニケーション学部棟
C 文化情報学部棟
D 文化情報学部メディア棟
E 体育館
F 大学会館
G 学園センター
H 記念碑（人間橋由来記）
I 人間橋
J 希望橋
K 椙山人間交流会館
L クリプトメリア館
M 教育学部棟
N 現代マネジメント学部棟
O EX棟
P 中央図書館
Q スクールバス乗降場
R 看護学部棟
S 星が丘東グラウンド
T 正門
U 椙山女学園大学附属椙山こども園

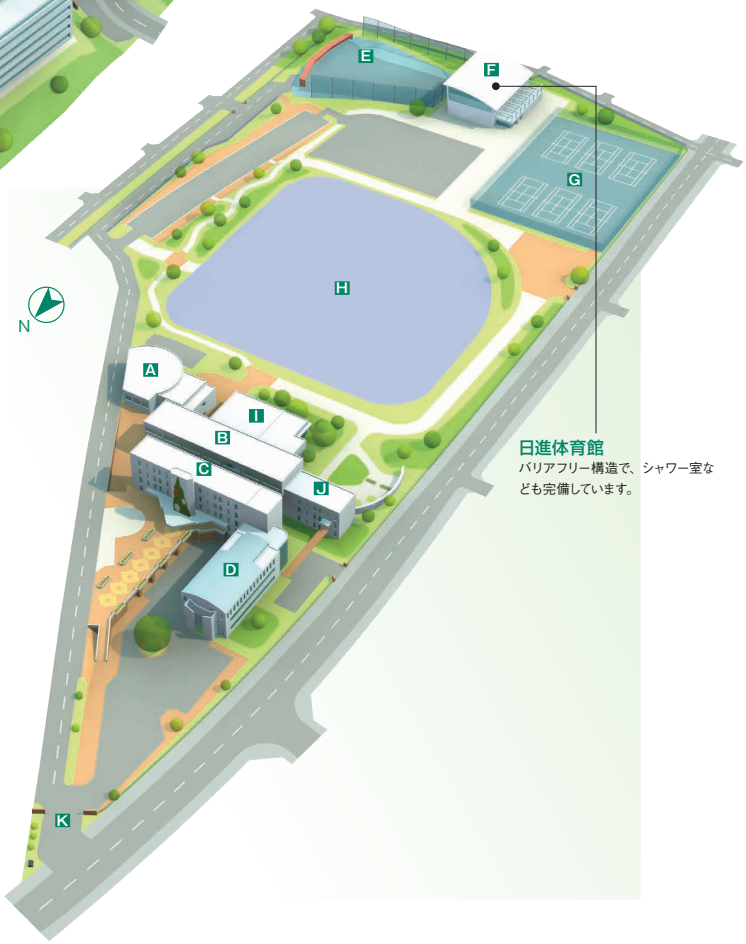
大学会館
食堂をはじめ、書店、売店などが設置されています。
3階の大講義室・会議室・和室は、シャワー室を備えた体育館とともにクラブ活動にも利用されています。

日進キャンパス

大学・大学院

- 人間関係学部
- 人間関係学研究科

A 大学会館日進分館（食堂・多目的ホール）
B 2号棟
C 1号棟
D 5号棟
E ゴルフ練習場
F 日進体育館
G テニスコート
H 多目的グラウンド
I 日進図書館
J 臨床心理相談室
K 正門・スクールバス停留所

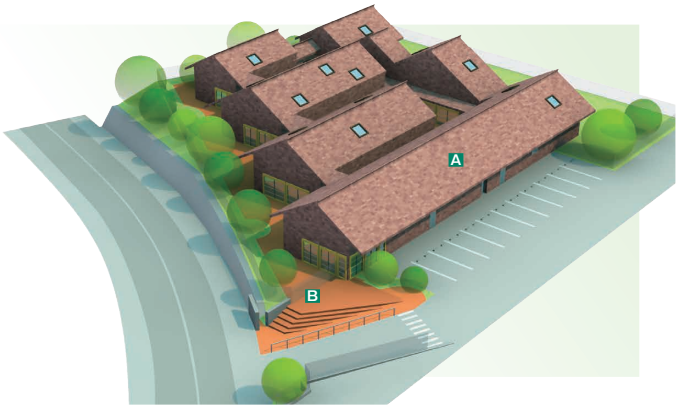


日進体育館
バリアフリー構造で、シャワー室なども完備しています。

星が丘キャンパス

こども園

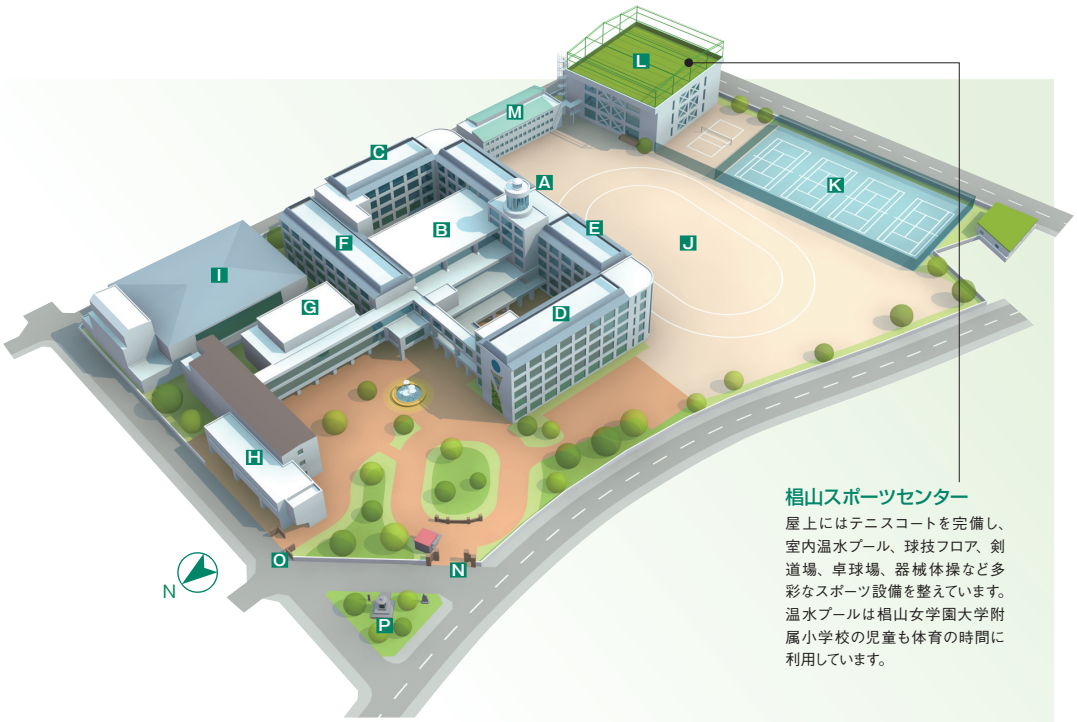
A 園舎
B 正門



山添キャンパス

中学校・高等学校

- A 金剛塔（金剛鐘）
- B 中央館・職員室（2F）
- C 東館
- D 西館
- E 南館
- F 北館
- G 科学館
- H 北斗館
- I 和風館（体育館）
- J グラウンド
- K テニスコート
- L 椙山スポーツセンター
- M すぎのこ（クラブハウス）
- N 正門
- O 通用門
- P 孝経幢

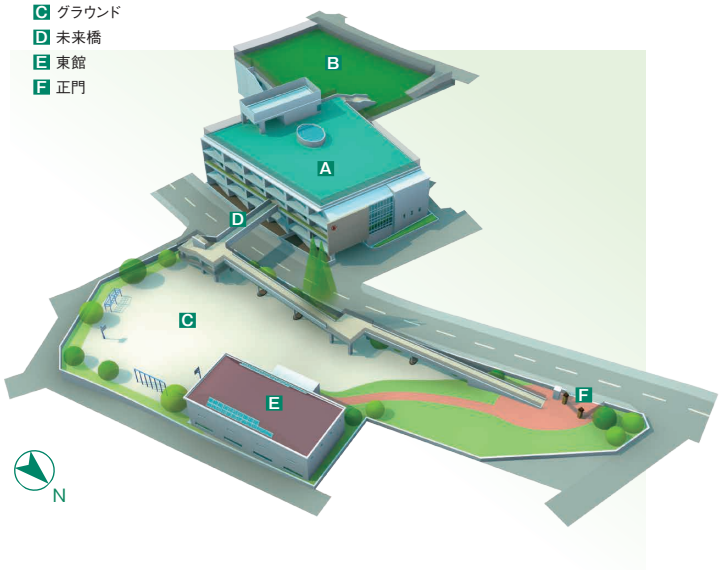


椙山スポーツセンター

屋上にはテニスコートを完備し、室内温水プール、球技フロア、剣道場、卓球場、器械体操など多彩なスポーツ設備を整えています。温水プールは椙山女学園大学附属小学校の児童も体育の時間に利用しています。

小学校

- A 教室・職員室（3F）・屋上グラウンド（5F）
- B 体育館（2F）・人工芝グラウンド（4F）
- C グラウンド
- D 未来橋
- E 東館
- F 正門



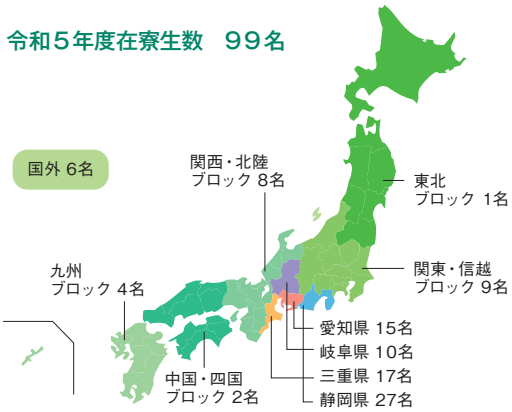
保育園・幼稚園

- A 園舎
- B 屋上庭園・ランニングサーキット
- C 森の広場
- D 園庭
- E 正門

■学生寮（大学）

名　称		富士見寮
場　所		名古屋市名東区
構造規模		鉄筋コンクリート9階建
収容定員		152名（152室）
部屋面積		20.10m²～20.48m²
経費	①入寮費（入寮時のみ）	40,500円
	②室代（毎月）	39,000円～42,600円
	③共益費（毎月）	2,500円
	④水道代（毎月）	共益費に含む
	⑤電気・ガス代	実費

令和５年度在寮生数　９９名



■学園内主要メディア紹介

●学園

「糸菊」

明治39年に「糸櫻」として創刊。この年、名古屋裁縫女学校内に、生徒・卒業生・教職員によって組織される「和風会」（現在の生徒会・同窓会の母体）が成立し、その機関誌として発刊されました。その後、大正2年に「糸菊」と改称。昭和19年から23年までは戦中・戦後の混乱で休刊しましたが、以後、毎年欠かさず発行しています。令和5年版の発行部数は1万1,700部で、学生・生徒・児童・園児のほか、現職員、旧職員、同窓会に配付しています。情報交換・提供の場だけでなく、学園の足跡を詳細に記録する貴重な資料としての役割を担っています。

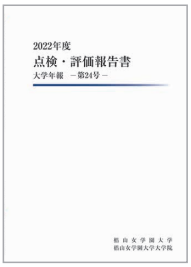
椙山人間学研究センター年誌「椙山人間学研究」

教育理念「人間になろう」の具体的展開と21世紀を切り拓く新たな人間についての「知」の研究拠点という二軸を中心に研究展開する椙山人間学研究センターの年誌です。センターの研究成果を学園のみならず、学界、一般社会、地域へと発信することを目指しています。

●大学

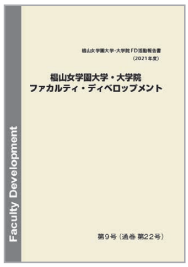
大学報「風」

大学内外の交流を活性化し、大学の生活・教育・研究の現状を広く伝えることを目的に平成6年に創刊。在学生や保護者、教職員などを対象に年2回発行しています。



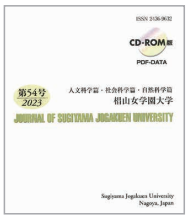
点検・評価報告書

大学の自己点検・評価活動の一環として毎年刊行しています。現状の各種教育・研究活動の状況、資料・データをまとめています。



FD活動報告書

本学におけるFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動を記録した報告書。各研究科・学部のFD活動のほか、全学的な取り組みとして実施した「学生による授業アンケート」などについて記述しています。



椙山女学園大学研究論集

本学における活発な研究活動の足跡を残すとともに、社会に対して教育研究機関の責務を果たすことを目的に、「人文科学篇」「社会科学篇」「自然科学篇」の3編成で年1回発行。大学教員の寄稿により構成しています。

●中学校・高等学校

すぎやま

中学校・高等学校の"学校だより"として、学期ごとに年3回発行。生徒の様子や行事など、各種案内や報告を掲載しています。

金剛鐘

年2回発行の中・高PTA機関誌。学級懇談会やPTA活動の様子、学校からのお知らせや行事などの案内・報告を掲載しています。

●高等学校

歩み

高等学校生徒会発行の機関誌。年度末に発行し、生徒会やクラブ活動・クラス紹介などで構成。高校生活を記録しています。

●中学校

みち

中学校生徒会発行の機関誌。年度末に発行し、生徒会・クラブ・クラスの活動や行事など、年間の活動を記録しています。

●小学校

小学校だより

小学校・小学校PTAにより学期ごとに年3回発行。児童の作文や作品紹介をはじめ、保護者の声、行事案内などを掲載しています。

●同窓会

希望（のぞみ）

卒業生との架け橋として毎年発行し、バス旅行や懇親会、各種講習会など、同窓会行事を案内しています。

このほかにもさまざまな刊行物があります。学園では「学園報」、大学では各学部発行の「研究紀要」や学芸員課程の記録「BSM」（Bulletin of Sugiyama Museology）などを刊行しています。中学校・高等学校では、生徒自身の実体験を重視した修学旅行を実施していますが、この事前学習や現地での学びなどは冊子としてまとめられています。これらの刊行物は図書館に収められ、閲覧することが可能です。
また、保育園とこども園では「園だより」、幼稚園では「幼稚園だより」、小学校では「学校通信"椙小"」が毎月発行され、保護者の皆さまへの連絡・案内などに利用されています。

■交通アクセス

星が丘キャンパス

〒464-8662　名古屋市千種区星が丘元町17番3号
TEL（052）781-1186（代）　FAX（052）781-8831

椙山女学園大学

◆生活科学部
◆国際コミュニケーション学部
◆文化情報学部
◆現代マネジメント学部
◆教育学部
◆看護学部
◆生活科学研究科
◆現代マネジメント研究科
◆教育学研究科

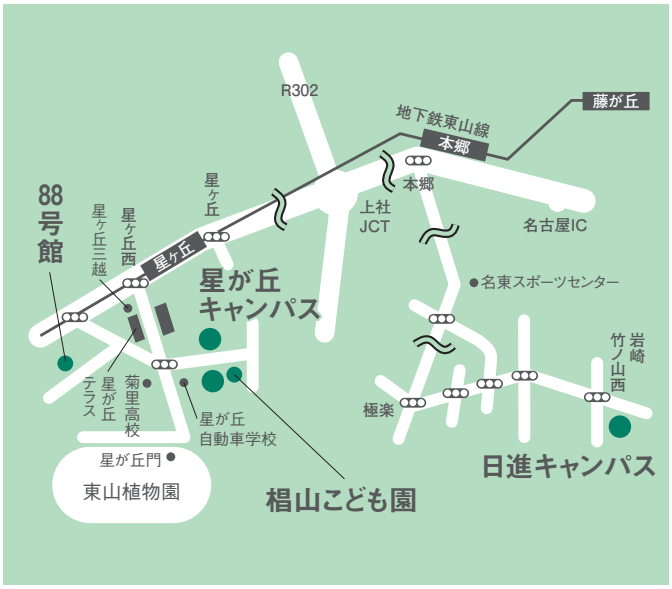
◆事務局

● 地下鉄東山線「星ヶ丘」下車、6番出口より徒歩5分

〒465-0078　名古屋市名東区にじが丘1丁目12番地の4
TEL（052）781-6555（代）　FAX（052）781-6725

椙山女学園大学附属椙山こども園

● 地下鉄東山線「星ヶ丘」下車、6番出口より徒歩6分



日進キャンパス

〒470-0136　愛知県日進市竹の山3丁目2005番地
TEL（0561）74-1186（代）　FAX（0561）73-4443

椙山女学園大学

◆人間関係学部
◆人間関係学研究科

● 無料スクールバスで、星が丘キャンパスから20分または地下鉄鶴舞線「赤池」から20分
● 地下鉄東山線「本郷」から市バス「猪高緑地」行き、終点下車、徒歩4分
● 地下鉄東山線「藤が丘」から名鉄バスで「椙山女学園日進」下車すぐ

山添キャンパス

〒464-0832　名古屋市千種区山添町2丁目2番地
TEL（052）751-8131（代）　FAX（052）761-1373

椙山女学園高等学校
椙山女学園大学附属幼稚園
椙山女学園中学校
椙山女学園大学附属保育園
椙山女学園大学附属小学校

● 地下鉄東山線「覚王山」下車、4番出口より徒歩7分
● バス
系統名 金山11
「田代本通」下車徒歩5分、「覚王山」下車徒歩7分
系統名 名駅17
「日進通五丁目」下車徒歩3分、「田代本通」下車徒歩5分
系統名 栄16
「日進通五丁目」下車徒歩3分、「田代本通」下車徒歩5分
系統名 茶屋12
「覚王山」下車徒歩7分
系統名 池下11
「覚王山」下車徒歩7分
系統名 千種巡回
「日進通五丁目」下車徒歩3分、「田代本通」下車徒歩5分

88号館

〒464-0802　名古屋市千種区星が丘元町108番地2

● 地下鉄東山線「星ヶ丘」下車、7番出口より徒歩5分

椙山女学園
〒464-8662　名古屋市千種区星が丘元町17番3号　https://www.sugiyama-u.ac.jp